

8月21日(木) 18:30~



会場：Zoom 及び国労会館大会議室

誰でも参加できます。
Zoomでの参加の方は
前日までに連絡ください。

第199回定例研究会

「年収の壁」から考える 税と社会保障の関係

報告：中澤 秀一氏（静岡労研所長）

これからの企画

◆第199回定例研究会

日時… 9月18日(木) 18:30~

場所… 国労会館会議室&Zoom

内容… 「未定」

報告… 「未定」

◆第200回定例研究会

日時… 10月16日(木) 18:30~

場所… 国労会館会議室&Zoom

内容… 「未定」

報告… 「未定」

就労調整の起点となっている

「年収の壁」問題を考える

近年の最低賃金の上昇に伴って、注目されるようになったのが「年収の壁」です。注目のきっかけとなったのは、昨年の総選挙で国民民主党が掲げたキャッチフレーズ「手取りを増やす」でした。このキャッチフレーズが若年層を中心に有権者の支持を集めて国民民主党が大躍進したのは記憶に新しいが、手取り増大策の目玉となったのが、「103万円の壁」を178万円に引き上げるという政策です。実際には103万円を超えて働いても手取りの逆転現象は起こらないし、「178万円の壁」になったとしても税収減を他の租税公課で穴埋めするのだとすれば手取りが増えない。それにもかかわらず「103万円の壁」の改革が「手取りを増やす」と安易に信じられてしまったこと背景には、国民が税や社会保障にあまり関心を持たず、その仕組みについてきちんと理解していないことがあると考えられます。「年収の壁」について解説し、さらに生計費の視点から税のあり方を考え、そのうえで、今後の税と社会保障の関係について検討します。

※連絡先：〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 静岡交通ビル3階301号（静岡県評内）

静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973

メール roudouadv@cy.tnc.ne.jp

ホームページ <http://shizuokarouken.sakura.ne.jp/index.html>